



看護師

栗森 佳奈

出身地 倉敷市

趣味：旅行、ご当地ち
いがわめ

病棟での経験を通して、住み慣れたご自宅で安心して過ごすことの大切さを感じ、在宅医療に興味を持ちました。在宅医療はまだ経験が浅く未熟ですが、一人ひとりのお気持ちに寄り添い、安心して過ごしていただけるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



医療
ソーシャルワーカー

向川 真博

出身地 広島県

趣味：ベタンク

病院に勤めていたころに病状だけでなく、生活面を大切に在宅現場の考えに触れて興味を持ちました。その後約10年近隣地域で働いてきました。新たな出会いや事柄に触れ日々縁を感じています。皆さんのことに心を寄せ続けていきます。



管理
栄養士

高林 真知子

出身地 三重県

趣味：釣り

在宅で過ごされることを望まれた患者様とご家族の方のお手伝いをしたいと思い、在宅医療の現場を目指しました。皆様の声を聞いて、ご期待に沿えるようがんばります。よろしくお願いいたします。



医療
アシスタント

今井 宏幸

出身地 岡山市

趣味：スポーツ観戦
(最近サブスクで観る)

麻雀で24歳の時にプロになる予定でした。医療関係に従事するのは初めてです。地元の皆様のお役に立てるよう頑張っていきます。よろしくお願いいたします。



医療
アシスタント

吉田 茂樹

出身地 岡山市

趣味：スポーツ観戦

地元の皆様のお役に少しでも立てるよう一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします。



定期訪問 午前9時～午後5時 緊急往診 24時間対応

つばさクリニック

診療科目 訪問診療・内科
循環器科・呼吸器科・整形外科
〒710-0047
岡山県倉敷市大島534-1
TEL: 086-424-0283

つばさクリニック岡山

診療科目 訪問診療・内科・小児科
〒700-0026
岡山県岡山市北区幸違町1-7-7
TEL: 086-254-0283

つばさクリニック玉島

診療科目 訪問診療・内科・外科
〒710-0253
岡山県倉敷市新倉敷駅前5-244-2
TEL: 086-523-0283



つばさ新聞

令和7年11月1日
新規開院

LINE



インスタ



つばさクリニック玉島

ごあいさつ

いつもお世話になっております。このたび、玉島地域におきまして「つばさクリニック玉島」を開院する運びとなりました。地域の皆さまをはじめ、多くの関係者の皆さまのご支援とご協力により、この日を迎えられましたことを、心より御礼申し上げます。私どもは、「患者さんが住み慣れた家で安心して過ごせる医療」を大切に、職員一同力を尽くしてまいります。また、地域の医療・介護・福祉・行政の皆さまと連携を深め、より一層地域医療に貢献していく所存です。今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 中村 幸伸

このたび、つばさクリニック玉島の院長に就任いたしました岡田です。当院が目指すのは、地域の皆さまが住み慣れたご自宅で安心して過ごしていただけるよう、思いに寄り添い、向き合い、サポートすることと考えています。その方らしい人生を大切に、ご本人とご家族が穏やかに納得のいく時間を過ごせるよう、心を込めて関わってまいります。さらに「自宅で最期まで過ごことができる」そんな思いを実現できる地域づくりを目指し、地域の医療・介護機関とも密に連携し、質の高い訪問診療を提供する所存です。どうぞお気軽にご相談ください。

スタッフ一同、誠心誠意努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

院長 岡田 豊



診療所より車両移動でおおむね30分程度の範囲にある地域です。詳しくはお電話でお問い合わせください。

つばさクリニック玉島

岡山県倉敷市新倉敷駅前5-244-2

診療曜日 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時
(緊急時は24時間対応)

休診日 土曜日、日曜日、祝祭日



玉島スタッフ

ピアサポートメッセージ

※ピアサポートとは、同じ悩みや障害、病気をもつ人同士の支え合いを意味します。

先日、当院で診療していた患者様のご家族から嬉しい報告がありました。

「生前はお世話になりました。実は最近介護施設で働き始めたんです。母の介護をしてきた経験を生かそうと思って。おかげで施設でも利用者さんの排泄介助はへっちゃらです。勤務先もいいところで、みなさん優しく教えてくれます。今後は介護の資格が取れるように頑張ろうと思っています。」その生き生きと明るい声を聞いて元気を頂いた私は、もう少しお話を聞いてみようと思いインタビューにうかがいました。



インタビューにご協力いただいた森末さん

Q お母さんの介護をする前と後で心境の変化はありましたか？

A 病院から家に連れて帰る前はやっていけるか不安でしたが、祖父母の介護経験があったので「なんとかかなるかな」と思っていました。家に連れて帰ってから母の体調の変化に伴い不安はありましたが周りのサポートもあり思いのほか落ち着いていました。

Q 介護生活で嬉しかったこと、辛かったことはありましたか？

A 辛いと思ったことはなかったですね。それよりも、母が「ありがとう」や「ごめんな」と言ってくれたことが嬉しかったです。親子ですし喧嘩もしょっちゅうしていましたが（笑）それと、訪問診療や訪問看護、訪問入浴、デイサービスなど色々なサービスを使いながらの介護生活だったので、リフレッシュしながら介護できました。胃薬から栄養剤を注入していたのでサービスとの兼ね合いで時間の管理は大変でしたが、ケアマネさんも気にしてくれて皆に支えられました。

Q 介護をしてきた家族の立場から、現在も介護をしている方たちへ伝えたいことはありますか？

A 辛いこともあるかもしれないけど嬉しいことも返ってくるということですね。どんなに認知症が進行したり寝たきりだったりしても、感謝の気持ちとか心では分かっていると思います。

介護を経験したからこそ相手の気持ちに寄り添える、優しい気持ちを持つことや相手の気持ちを察することなどは今に繋がっている、母が遺してくれたものだとおっしゃっていました。新たな人生を歩む姿にほっとすると同時に、背中を押された気持ちにもなりました。最後に、この度快くインタビューにご協力いただき大変感謝いたします。（MSW 篠岡）



Dr. 岡田の 南極物語リターンズ



第22回：ヘリコプターが飛んできた

ヘリコプターオペレーションが終了した翌日、午前中は天気が悪く停滞。午後になり晴れ間がでてきたため移動することになった。荷物の減った機を新たに編成し直した後、午後2時にH128地点を出発した。順調に進行。約30km進み、午後5時にはH68地点に到着、キャンブインとなった。最終地点のS16地点までは残り50kmの距離となった。給油と雪上車の整備を行い、午後7時より夕食。ゴールが見えてきたこともあり、この日も全員で乾杯した。

午後8時の定時交信を終えた後、僕は三線を手に一人雪上車を離れた。日が傾き影が長くなる中、雪の上に正座し、三線を弾き始めた。風はなく、太陽の光を真正面から受ける。ゆっくりと思いを込めて八重山民謡の「でんさ節」唄った。夕日を浴びながらの演奏は心地よく、南極大陸に三線の音色が響き渡った。

明日の天気も快晴の予報。朝から50kmを移動し、昼過ぎにはゴールとなるS-16地点に着くだろう。雪上車での移動は明日で最後になる。午後10時、外が薄暗くなってきた。ずっと太陽が沈まなかった白夜ももう少しで終わりを告げる。



2025年9月19日(金)

倉敷アイビースクエア

地域連携の会を開催しました！

この会は、患者さんの在宅医療を支えるために必要な「医療介護間の顔の見える連携」を目的に開催しております。今年も多くの方にご参加いただき、大変盛況な会となりました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

第1部：講演



第2部：懇親会

